

第25回ブルーベリーシンポジウム開催

(東京) 10月27日(土)、東京都中小企業会館(東京銀座)において一般社団法人日本ブルーベリー協会主催によるブルーベリーシンポジウムが開催された。全国の生産者、試験研究機関、JA関係者、生産資材メーカー、食品加工企業などから100名近い参加者があった。

当シンポジウムのテーマは「ブルーベリーを見直す安定経営の道」と題し、特別講演をはじめに、以下の通りの演題で講演があった。  
・特別講演

「気候変動および異常気象とブルーベリー栽培」

農研機構 果樹茶業研究部門 園地環境ユニット長  
杉浦 俊彦氏

・事例報告  
① 「気象災害とブルーベリーの経営安定について」

千葉県 ㈱ピンコロ農園 園主  
碓井 修蔵氏 (協会理事)

② 「りんごとブルーベリーのくみあわせによる栽培技術の工夫と正品化率向上を目指した経営」

岩手県 北田りんご園  
北田 健氏

③ 「集落営農の経営に道筋がついたブルーベリー栽培」

岐阜県 ㈱甘原ええのお 代表取締役  
山田 照次氏

④ 「営農と太陽光発電エネルギーの両立」

岡山県 (一社)ノウチエナジー 代表理事  
酒本 道雄氏

⑤ 「ソーラシエアリングとブルーベリー栽培の実践」

千葉県 五平山農園 代表  
藤江 信一郎氏

いすみ自然エネルギー㈱ 取締役  
高木 繁昌氏

以上の講演では、気象変動によるブルーベリー栽培への影響と対策およびブルーベリーとリンゴやイチゴなど他品目との組み合わせによる経営事例、営農組織設立の取り組み事例の紹介、また、太陽光発電システムをブルーベリー栽培圃場の上に設置し、太陽光発電事業とブルーベリー栽培を両立させた経営について紹介された。

総合討議においては、当シンポジウムの座長を務めた㈱ピンコロ農園園主の碓井修蔵氏から、異常気象に対応するための土づくりとリンゴの重要性について提起され、従来からの施肥の考え方を見直しする必要があるとの見解が示された。酸性土壌を好むブルーベリーでは堆肥の投入が少なく、土壌の保水性が乏しいために乾燥によるストレスが生育に影響してしまうことや、腐植が少ないことでリン酸の肥効が極めて低くなることで果実の品質低下、特に糖度の低下につながることから堆肥とリン酸の同時施用を強く勧めている。